

2018年(平成30年)4月2日(月曜日)

幸辰

新

コヒ

団地の里山 桜名所に

名取市西北部の丘陵地帯にある那智が丘団地の住民が、団地近くの熊野那智神社周辺の里山を桜の名所によつて、植樹活動に取り組んでいる。1990年代から急速に開発が進んだ団地周辺にはこれまで桜の木がほとんどなく、里山を淡い紅色に染めて、地域の一体感を高めようと考えた。

名取・那智が丘 植樹計画推進中

「那智が丘きらプロジェクト」と銘打った取り組みで、住民ら約30人が3月24日、団地から神社に至る道沿いの計約300本に、約7メートルで苗木40本を植え、支柱を立てた。桜は全て病気や寒さに強いとされるシンダイアケボノにした。

プロジェクトは3年計画。植樹は50本を植えた昨年3月に続き2回目。来年3月にも40本を植える。オーナーを募り1口5000円の収入を活動経費に充てる。100年先の子孫が楽しめる桜にするため除草や消費、枝切りに当たる住民グループ「きら見守り隊」も組織した。

那智が丘団地は仙台市境という好条件から宅地化が進んだが、神社周辺の里山は宅地化前に盛んだった炭焼きに用いる樹木が多く、桜はほとんど植えられてこなかった。

「花は吉野か 那智が丘か」を目標に、団地住民のよりどころの神社が桜色に包まれる情景

「一目千本桜」級へ住民熱意

を思い浮かべ、プロジェクトを始めた。

プロジェクト最終年となる来

年は神社創建1300年に当たる。メンバーは神社と高台からの眺望、桜をセットとして捉え、いずれは目石沿いの「一目千本桜」級の観光スポットに育てようと思ふ。

プロジェクトの高橋勇悦代表は「桜を植える続け、地域のつながりが次第に強くなってきた。孫の代には大木に育った桜の下で、地域住民が花見に興じる街になってほしい」と願う。



シンダイアケボノの苗木を植える住民ら